

新入生の皆さん、入学おめでとう。

・ 早春の緑のシャワーを浴びながら、バス停から学内の通路を歩いていくと、左手に白く咲くユキヤナギ、右手に黄色く咲き乱れるレンギョウ、そしてまた咲いているサクラのソメイヨシノに比べると華やかさはないが日本の野生の桜の代表ともいえるヤマザクラ、そして「ホーホケキョ」の鳴き声。「春告げ鳥」と呼ばれ、四月から七月までさえずるウグイス。ほどなく正面入り口、そしてオーブンテラスのある緑に囲まれたカフェテリア、フランスのルーヴル美術館を思わせるガラス製のピラミッドのエントランスから地下へと入ると、ここ芙蓉館ホール。斬新なデザインの建物と緑あふれる自然豊かなキャンパスが広がっています。

入学にあたり「個性」についてお話をいたします。

「わたしと小鳥とすずと」

わたしが両手をひろげても、お空はちっともとべないが、とべる小鳥はわたしののように、地べたをはやくは走れない。わたしがからだをゆすつても、きれいな音はでないけど、あの鳴るすずはわたしののように、たくさんのおたは知らないよ。

すずと、小鳥と、それからわたし、みんならがつて、みんないい。

この詩は、大正から昭和初期にかけて活躍した日本の童謡詩人で、わずか二十六歳でこの世を去った「金子みすゞ」の詩です。

そして、「進化はたまたま起こる」ということです。

たとえばウマは、最初から足を速くしようと思ったわけではありません。体の大きなウマ、首の長いウマ、足の長いウマなど、いろんなウマが生まれた中で、たまたま今のウマの形がいれば環境に合っていたから生き残ったのです。だから、進化するためには「みんな違っていること」がとても大切なのです。

もうひとつは、「今いらばん強い生き物が、必ず生き残るわけではない」ということです。

約六千五百万年前にいた恐竜たらは、地球に隕石がぶつかり、地球が寒くなったことで絶滅したとされています。一方で、モグラのように弱く小さな生き物は、たくましく生き残ってい

ます。

人間を含め、自然の生き物はみな違う。一卵性双生児でさえも、異なつた個性に育てきます。

それぞれが、別々で、でもそれに優劣はないことを、それぞれが素晴らしいのだということを表現しています。

さて、保護者の皆様にご挨拶を申し上げます。入学、本当におめでとうございませう。大学生といつてもまだ大多数が十八歳、山村短大のご家庭で、手を取り合い、健やかな成長に力を注いで、見守つていただくことを願ひたいと思います。

新入生の皆さん、「さいたま景観賞」を受賞した、緑あふれるこのキャンパスを愛し、入学して良かったと思える学園生活を、先輩と一緒になつて創つてくれること、そして本短大の校歌にも歌われている「友よ やまむら」にあるように、人生にとつかけがえのない友をつつてくださいます。

そして、先ほど話した「みんなならがて、みんない」と、ぜひ個性を磨いてください。

本学の自然豊かな「森の学園」での二年間で感性を磨き、保育の心を十分に育んでいく中で、光り輝く自分を発見していくことを期待し、式辞といたします。

令和二年四月一日

学校法人 山村学園短期大学 学長 野口一夫